

9-6 権限委譲をデザインする：

(Ⅲ)最適な自動化レベルの選択

機械による人の支援形態として可能性があるものを系統的に抽出あるいは考案するうえで、自動化レベルのリストが有用な道具となり得ることは、「権限委譲をデザインする(Ⅰ)」及び「同(Ⅱ)」でみたとおりです。候補となる支援形態のうちからどれを選択すべきか、あるいは等価であるが、どの自動化レベルを採用すべきかについては、上記(Ⅰ)と(Ⅱ)に掲げた例において、設計者のメンタルシミュレーションとして示した方法によって、ほとんど見当をつけることができます。

ただし、そこで展開したような定性的な検討だけでは、どの自動化レベルを採用すべきかを決めるのがむずかしい場合もあります。そのようなとき、あるいは定性的な検討で目星をつけた自動化レベル(支援形態)の妥当性を検証しようとするときは、定量的な検討が必要になります。その代表的なものとしては、数理モデルを用いて理論的解析を行う方式、シミュレータを用いた認知工学的実験によって評価・検証を行う方式、人と機械の情報処理とインタラクションのコンピュータシミュレーションによって評価・検証を行う方式などがあります。